

病院誘致問題に関する面談等記録作成及び市長の所信表明に関する陳情

陳情の趣旨

- 1 総合的病院誘致に関する関係機関等との会議が行われた際の会議概要等について、現状の記録は極めて的確性に欠けると考えますので、所管は当該会議等において必要かつ正確な情報収集に努め、電磁的記録媒体等を活用し、オフレコを極力排してより正確な行政文書の作成及びオリジナル資料の保存に意を用いるよう陳情します。
- 2 市長は、医療法人社団葵会が109床規模病院開設許可を受けた場合、109床規模病院の取り扱いについて、所信を明確に表明されるよう陳情します。

陳情の理由

陳情提出に際し、具体的例として逗子市長が平成30年1月26日、医療法人社団葵会理事長と面談した際の会議概要及び同年3月6日、葵会関係者と面談した際の会議概要並びに葵会が県知事へ提出した「病院開設許可申請書」を引用します。

1 葵会理事長との面談記録について

- (1) 市長は面談に際し、不足病床数131床にのみスポットを当てての意見交換であったが、県は、平成29年11月時点で50床過剰のシミュレーション結果も示しており、当然のこととして、危機管理上、不測の事態対処に関する意見交換があった可能性も否定できないが、記録にはない。
- (2) 医師の確保についての意見交換では、理事長からの抽象的な話で終始しているが、誘致する市長として、より具体的な案を引き出す等の意見交換を行ったのかどうか記述がない。
- (3) 増床が見込めなかった場合、109床規模病院の取り扱いについての意見交換があった可能性が高いと考えられるが記述がない。
- (4) 当該面談記録の作成日はH30.01.29であったが、情報公開準備が出来たとの連絡を受けたのが2月23日であった。文書公開までの所要日数が異常に長く、この間、市長と所管との間で文書の加除訂正が複数回行われていたのではないかと疑念がある。
- (5) 電磁的記録媒体はない。

2 葵会関係者との面談記録について

- (1) 面談は1時間20分とされているが、会議概要は26行に留まっており、会議概要を正確に、欠落がなく記録したとは考えられない。
- (2) 都市計画決定の後ろ倒し等のスケジュール変更の理由が述べられていない。
- (3) 「病床機能」に関する意見交換があったことは記録されているものの、その内容、すなわち割当て病床の数によって機能がどのように変化するか記述が欠落している。
- (4) 医療スタッフの確保について葵会は、「具体的なことは言えない」と発言しているが、この発言に対する市側の弱弱しい発言は問題である。



- (5) この面談では、「今後のスケジュールや課題について共有している」とされているが、課題が何で、スケジュールをどのように変更するか等の記述がない。
- (6) 面談時間の長さ及び面談内容の重要性を考えると、IC レコーダー等の併用が必須と考えるが、所管にはその着意に欠けている。

3 葵会の 109 床規模病院の取り扱いに関する市長の所信表明について

- (1) 所管は、葵会の「病院開設許可申請書」を見ていないし、現時点では葵会に対して提出させる予定はなく、聖ヨゼフ病院の場合も同じであったとしているが、極めて不可解なことであり、積極的な情報収集及び市民への情報開示の意欲に欠けている。
- (2) 総合的病院に関する検討会が、昨年度数回開催され市民要望等も吸い上げられたが、それらの事が「病院開設許可申請書」にどのように反映されているのか否か、所管は、葵会が当該申請書を県知事へ提出するに際し、事前にチェックする義務を怠っている。
- (3) 市長は、あくまでも 200 床規模以上の病院開設に拘り、現在進行中の 109 床規模病院の「病院開設許可申請」は単なるセレモニーの一つと捉えているふしがあり、申請内容及び開設に関しては全くと言ってよいほど関心がないように見受けられる。

109 床規模病院の取り扱いについて、建物自体は 300 床規模のサイズとして、とりあえずは 109 床規模病院として葵会に病院建設をさせるのか、若しくは 200 床規模以上の病床が確保されるまで、病院自体の建設を延期させるかの所信を明確に表明すべきである。


添付資料：

別紙第 1 平成 30 年 1 月 26 日「医療法人葵会理事長との会議概要」

別紙第 2 平成 30 年 3 月 6 日「医療法人社団明石部長ほかとの会議概要」

平成 30 年 5 月 29 日

住所： 逗子市沼間 3 丁目 17-10

氏名： のざき まさたか
野崎 正高 

逗子市議会議長 高野 毅 様